



感染症発生動向調査速報

2026年 第30週

令和8年7月20日～令和8年7月26日

送信先	感染症週報登録関係機関 担当者 様	送信日	令和8年7月30日(木)
-----	-------------------	-----	--------------

【管内情報】

定点種別	疾病	注意報 開始値	警報値		報告週					
			開始	終息	25w	26w	27w	28w	29w	30w
インフルエンザ COVID19	インフルエンザ	10	30	10	0	0	0	0	0	0.00
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	1.33	0.33	1.67	3.33	2.67	0.00
小児科	RSウイルス感染症	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	咽頭結膜熱	-	3	1	0	0	0	0	0	0.50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	1.5	0	0	0.5	0.5	0.00
	感染性胃腸炎	-	20	12	2.5	2	1.5	1.5	1.5	2.00
	水痘	1	2	1	0.5	1	0.5	1	0	0.50
	手足口病	-	5	2	0	0	0.5	0.5	3	5.00
	伝染性紅斑	-	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	突発性発しん	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	ヘルパンギーナ	-	6	2	0	0	0	0	1.5	0.00
	流行性耳下腺炎	3	6	2	0	0.5	0	0	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	-	1	0.1	0	0	0	0	0	0.00
	流行性角結膜炎	-	8	4	1	0	0	0	0	0.00
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	無菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
急性呼吸器感染症	急性呼吸器感染症(A R I)	-	-	-	17.67	14.33	25.33	27.67	24.00	18.67

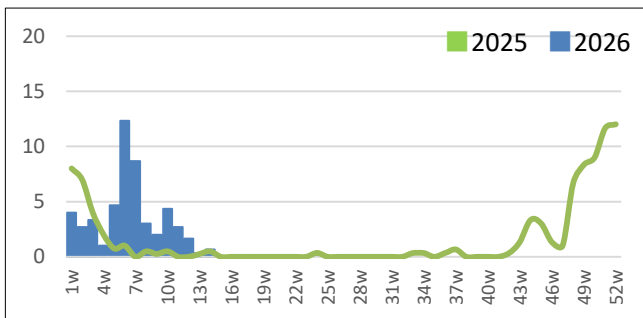


図1 インフルエンザ発生状況(定点当たり)

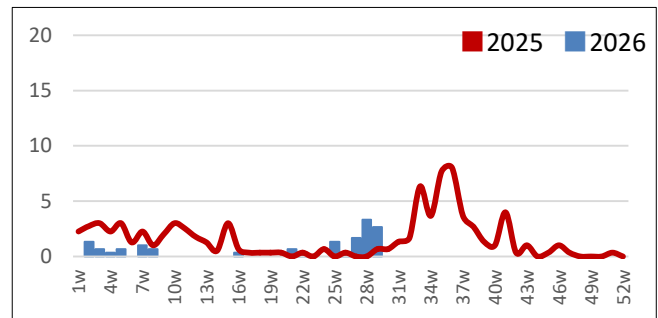


図2 新型コロナウイルス感染症発生状況(定点当たり)

【通信欄】

〈管内／警報・注意報の発令〉

■ 五島保健所管内「手足口病」で警報発令

手足口病は口腔粘膜や四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。原因ウイルスによっては無菌性髄膜炎や脳炎を併発することもありますので早めの医療機関受診が推奨されます。

〈長崎県からのお知らせ〉

■ 第30週の新型コロナウイルス感染症の県平均値は5.02で、やや減少しました。先週同様、年代別では10歳未満(64%)、10代(16%)の順に多く、14歳以下で約8割を占めています。

〈夏季休暇の海外渡航者に対する感染症予防〉…厚労省や検疫所のホームページをご確認ください。

■ 厚生労働省ホームページ「海外へ渡航される皆様へ」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou18/index_00003.html

全国・県・五島の発生状況はホムラジ参照 <https://www.pref.nagasaki.jp/section/gt-h-kikaku/>
(お問い合わせ) 長崎県五島保健所 企画保健課 TEL0959-72-3125 担当:馬郡、福本

長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第30週 2026年7月20日(月)～2026年7月26日(日) 2026年7月30日作成

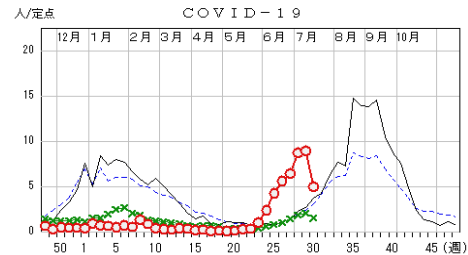
☆定点※報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

(1) 新型コロナウイルス感染症

第30週の報告数は256人で、前週より202人少なく、定点当たりの報告数は5.02であった。

年齢別では、1歳(44人)、10～14歳(31人)、2歳(27人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所(11.00)、県南保健所(6.40)、壱岐保健所(6.33)であった。

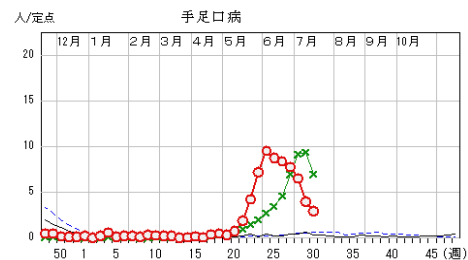


(2) 手足口病

第30週の報告数は90人で、前週より32人少なく、定点当たりの報告数は2.90であった。

年齢別では、1歳(37人)、2歳(21人)、1歳未満(12人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所(5.83)、県央保健所(5.20)、五島保健所(5.00)であった。

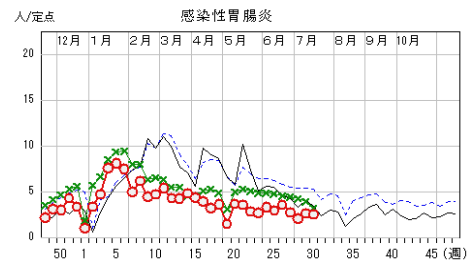


(3) 感染性胃腸炎

第30週の報告数は79人で、前週より3人少なく、定点当たりの報告数は2.55であった。

年齢別では、10～14歳(12人)、1歳(10人)、2歳(10人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所(6.00)、県北保健所(4.00)、長崎市保健所(3.33)であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
× 当年(全国) 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【新型コロナウイルス感染症】

第30週の報告数は256人で、定点当たり報告数は5.02でした。地区別にみると、県北地区(11.00)、県南地区(6.40)、壱岐地区(6.33)は他の地区より多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【手足口病】

第30週の報告数は90人で、定点当たり報告数は2.90でした。県全体では6週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が継続しています。地区別では、長崎地区（5.83）、県央地区（5.20）、五島地区（5.00）、西彼地区（2.67）、県南地区（2.67）は他の地区より多く、警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【感染性胃腸炎】

第30週の報告数は79人で、定点当たりの報告数は2.55でした。地区別にみると、西彼地区（6.00）、県北地区（4.00）、長崎地区（3.33）は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

★トピックス：海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

夏期休暇を利用して海外へ渡航される方が増えることが予想されます。海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

●厚生労働省ホームページ（海外へ渡航される皆様へ）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html

●厚生労働省検疫所ホームページ（FORTH）

<https://www.forth.go.jp/index.html>

★トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

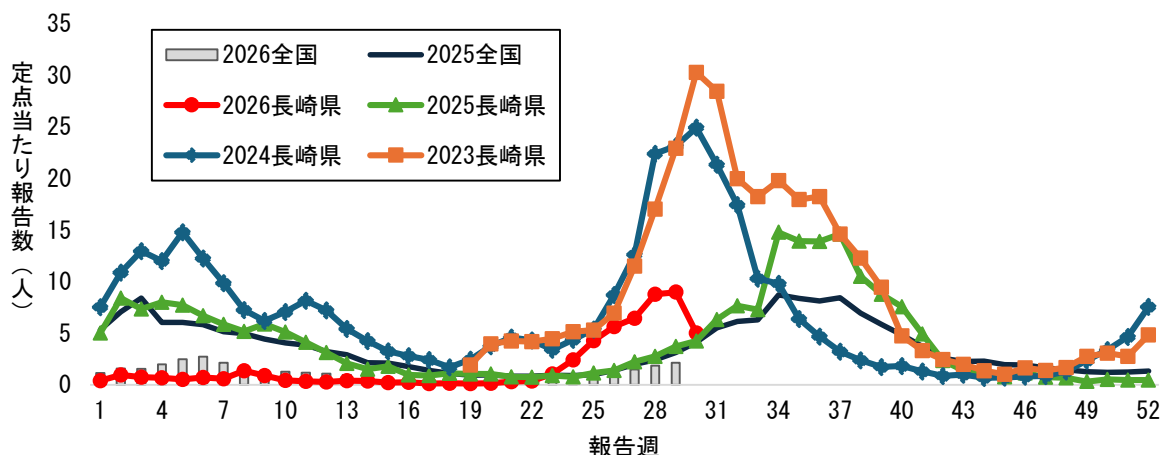
新型コロナウイルス感染症の長崎県における第30週の定点当たり報告数は「5.02」で、先週に比べて減少しました。

年代別では、10歳未満（64%）、10代（16%）の順に多く、14歳以下で約8割を占めています。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

詳細は長崎県感染症情報センターホームページ「新型コロナウイルス感染症」に掲載しています。

新型コロナウイルス感染症 定点当たり報告数推移



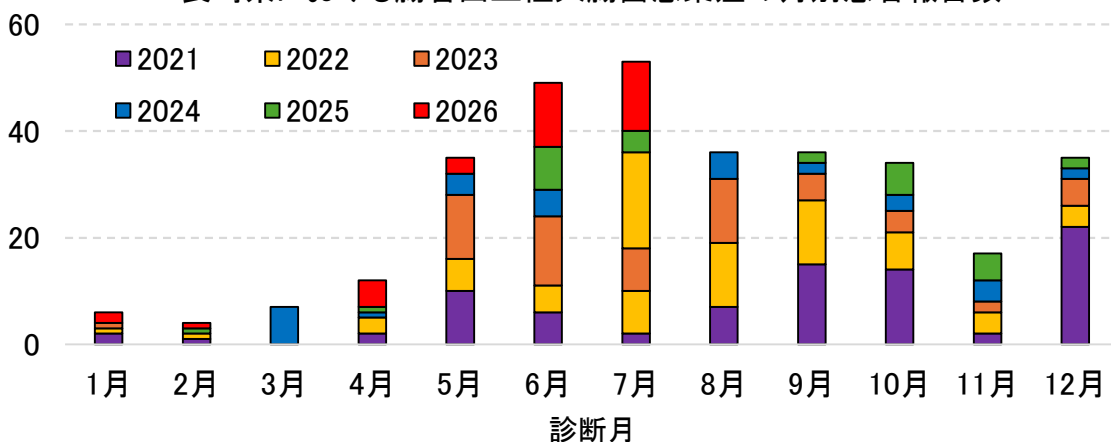
☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

- 帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- 肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
- 生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用後すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
- 下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう

(人) 長崎県における腸管出血性大腸菌感染症の月別患者報告数



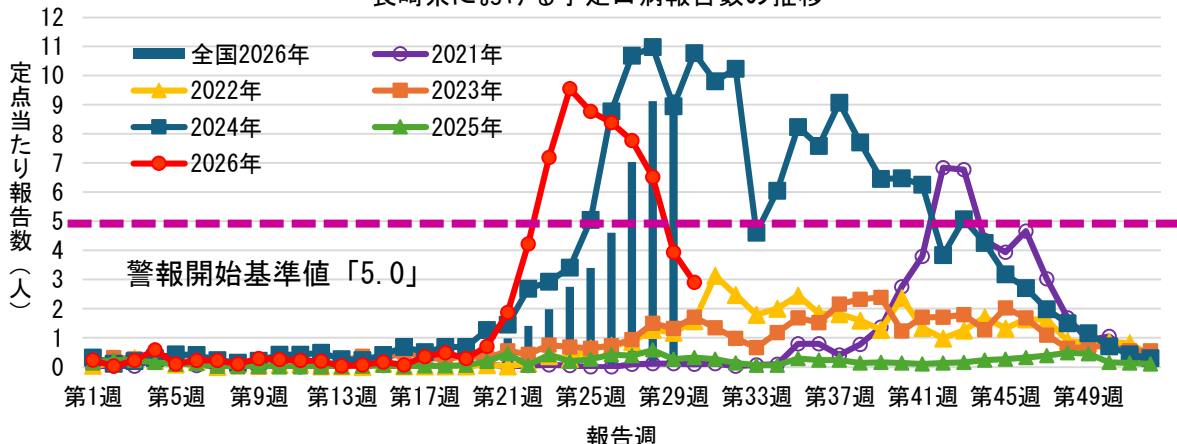
☆トピックス：手足口病が流行しています

手足口病は、その名のとおり四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。乳幼児での発症が多く、例年報告数の9割程度を5歳以下が占めますが、大人でも感染する可能性があります。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。主な原因ウイルスとしてコクサッキーウイルスA6(CV-A6)、CV-A16、エンテロウイルス71型(EV-A71)が知られています。

基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

長崎県の第30週の定点当たり報告数は「2.90」で6週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が8週間継続しています。長崎地区（5.83）、県央地区（5.20）、五島地区（5.00）、西彼地区（2.67）、県南地区（2.67）は、警報レベルの報告数となっています。年齢別では、2歳以下で全体の約8割を占めています。今後も手洗いを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

長崎県における手足口病報告数の推移



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（70代・2名、80代以上・1名）
女性（20代・1名、70代・1名、80代以上・1名）
3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 女性（60代・1名、80代以上・1名）
4類感染症：報告なし
5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 男性（80代以上・1名）
後天性免疫不全症候群 無症状病原体保有者 男性（20代・1名）
梅毒 患者 女性（30代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第25～30週、6/15～7/26)

疾患名	定点当たり患者数					
	25週	26週	27週	28週	29週	30週
	6/15～	6/22～	6/29～	7/6～	7/13～	7/20～
インフルエンザ			0.55	0.06	0.73	0.41
新型コロナウイルス感染症	4.27	5.63	6.45	8.76	8.98	5.02
RSウイルス感染症	1.35	1.87	1.42	1.90	1.48	0.90
咽頭結膜熱	0.84	0.58	0.48	0.45	0.45	0.32
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.68	2.26	2.23	1.71	1.42	0.94
感染性胃腸炎	2.97	3.61	2.74	2.06	2.65	2.55
水痘	0.23	0.48	0.23	0.94	0.19	0.35
手足口病	8.77	8.39	7.77	6.52	3.94	2.90
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.03		0.06	0.06	0.06	0.13
突発性発しん	0.39	0.35	0.16	0.39	0.29	0.26
ヘルパンギーナ	0.68	1.10	1.13	1.26	1.26	0.65
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.06	0.06		0.06	0.06
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	1.13	0.63	1.50	0.88	1.50	0.63
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎	0.08		0.08			
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.17	0.08	0.08	0.42	0.17
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						0.08
急性呼吸器感染症（ARI）	56.37	54.51	56.84	56.76	59.08	45.88

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第30週、7/20～7/26) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.41		0.09			0.63	3.00				
新型コロナウイルス感染症	5.02	6.00	5.73	6.33	2.60	5.38	6.40	11.00		3.33	0.33
RSウイルス感染症	0.90	1.00	1.00		0.33	1.40	0.67	4.00			
咽頭結膜熱	0.32	0.50	0.17		1.33	0.20		0.50	0.50		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.94	1.25	0.17		2.00	1.20	3.33	0.50			
感染性胃腸炎	2.55	3.25	3.33	3.00	6.00	1.40	1.00	4.00	2.00		
水痘	0.35	0.25	0.67			0.60		1.00	0.50		
手足口病	2.90	0.50	5.83		2.67	5.20	2.67		5.00	0.50	
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.13		0.17			0.60					
突発性発しん	0.26	0.50	0.67				0.33	0.50			
ヘルパンギーナ	0.65	0.25	0.67		0.33	0.20	3.67				1.00
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.06		0.17		0.33						
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.63				3.00		2.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.17				1.00		1.00				
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08	1.00									
急性呼吸器感染症（ARI）	45.88	50.29	84.55	19.00	47.40	49.75	25.20	28.33	18.67	13.33	19.67